

## 《活躍するマヌーシャ労働・海外雇用大臣》

2023年1月12日にスリランカのデイリーミラー電子版でマヌーシャ労働・海外雇用大臣のニュースを拝見した。報道によるとマヌーシャ大臣が率いる SLBFE (スリランカ海外雇用推進局) の職員がボーナスの支払いを求めて事務所周辺で抗議活動を実施したとのことである。そもそもスリランカ政府は経済危機に直面していることを理由に政府および関連機関のボーナス支払いを凍結していたが、一部の政府・関連機関で支払いが秘密裏に実施されていたことが発覚した。

SLBFE の職員は SLBFE の収支が黒字となっているにもかかわらずボーナスの支払いがないことに対して抗議を行ったようである。大臣はこの抗議に対し財務省に支払を認めるよう相談すると回答し、その場を収めたそうである。

この記事からマヌーシャ大臣が推進する海外雇用の確保のための活動が順調に推移していることが推測できる。また、財務省の指示を忠実に履行したという職務に対する誠実な姿勢や、職員の指摘に耳を傾けて過ちがあればすぐに改める行動力には感服せざるを得ない。

## 《2026年に向けた SLBFE の戦略プランは順調な立ち上がりか》

SLBFE はスリランカ国民に、海外のより良い雇用機会の提供を目指して活動する労働・海外雇用省傘下の公社組織である。スリランカ国内では送り先国のニーズに応える人材育成のための訓練や、教育の実施及び関連する施設等の運営を担っている。また、スリランカ国外では、働く自国民の権利保護や福利厚生等のサポート体制を、最先端の情報通信技術の活用や各国にある在外公館との協力により提供している。

SLBFE は 2022~2026 年の活動戦略に関するレポートを公表している。レポートは英文で 89 ページにおよび、うち 26 ページは活動戦略の立案プロセスを記載すると同時にその戦略に基づいたアクションプランの決定プロセスを説明する部分になっている。残りのページは SLBFE が決定した活動戦略とアクションプランについて、具体的な達成目標や行動計画、時間軸等を示す部分となっている。

活動戦略とその戦略に基づく具体的なアクションプランを検証可能な形式で国民及び世界に向けて情報発信しており、SLBFE の「覚悟」も併せて示すレポートになっている。具体的な進捗状況の情報はないが、SLBFE の収支が黒字ということは、その活動が順調に立ち上がっているものと推測できる。

図表1 デイリーミラー紙(電子版)の記事の抜粋

### SLBFE staff surround GM's office demanding bonus

The staff members of the Sri Lanka Bureau of Foreign Employment (SLBFE) today surrounded the office of the General Manager for not paying their annual bonus, as the company over-profitd during the past year.



12 Jan 2023

🗨️-4 📶-1602

出所 デイリーミラー紙(電子版)

## 《SLBFE の戦略の目的》

レポートからは、SLBFE の戦略の目的は「スリランカの労働力を積極的に海外の労働市場に供給することによってスリランカへの海外送金額を拡大させ、破綻の危機に瀕しているスリランカ経済の再生に繋げること」にあると読むことができる。SLBFE は単に人数を増やすだけでなく、教育や訓練によって人材の付加価値を高めること、移住する労働者の人権を脅かされるような国々の雇用構成比を引き下げること、安心して移住を選択できるようなセーフティネットの構築を進めることなどを強く意識している。移住する人数の増加と雇用の質向上、スリランカの労働力の高付加価値化を図っていると考えられる。

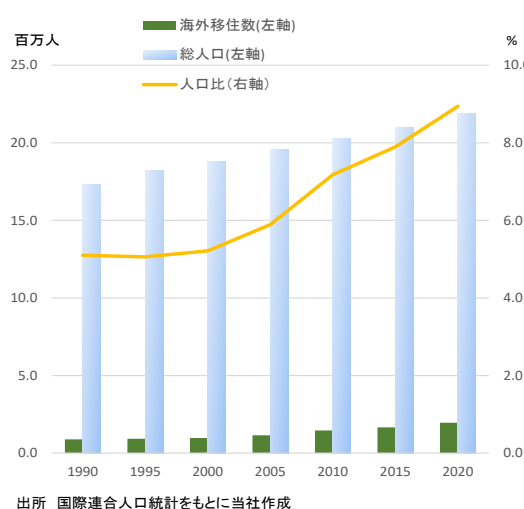
## 《SLBFE の戦略の妥当性》

スリランカの現況から判断すると、海外に雇用機会を求めて労働者を派遣し、外貨を獲得しようとする SLBFE の戦略は妥当といえよう。

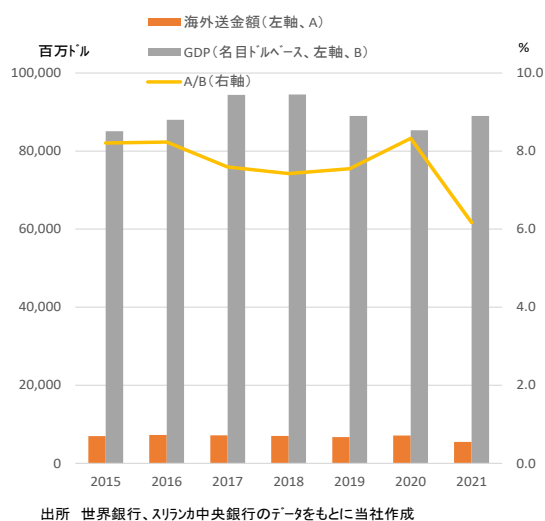
図表 2 にみられるように、2020 年時点でスリランカの人口約 2,100 万人の約 8% に相当する約 200 万人が海外で雇用されており、その比率は年を追って増加している。2020 年時点でおおよそ 12 人に 1 人のスリランカ国民が海外で働いていることになり、スリランカ国民にとって海外労働は身近であり、かつ重要な雇用機会となっている。適切なサポート体制を整えれば海外の雇用機会に向けた人材供給の増加は可能だろう。

また、図表 3 にみられるように、海外労働者のスリランカへの送金額は 2020 年に 71 億ドルに達し、それは 2020 年のドルベースの名目 GDP の 8.3% に相当する規模となっている。2021 年の海外送金額の名目 GDP に対する比率は 6.2% に低下しているが、これはコロナウィルス感染症の感染拡大による経済活動の停滞や人の移動の制限などが影響し、一時的に落ち込んだとみるべきだろう。海外労働者の送金はスリランカの重要な外貨獲得手段となっており、雇用も併せて考えるとスリランカ経済に対する貢献は極めて大きく、高付加価値化戦略を実施するファンダメンタルズは十分にあるといえよう。

図表2 スリランカの人口と海外移住者数の推移



図表3 海外送金額と名目GDPの推移



## 《海外への労働者送り出しはスリランカの重要な“産業政策”》

2020年の海外労働者によるスリランカへの海外送金額は1.3兆LKR（スリランカルピー）で、これはスリランカの輸出総額1.8兆LKRの70%に達している（図表4）。主要産業である茶（輸出額2,301億LKR）、ゴム（同55億LKR）、ココナッツ（同639億LKR）、衣料品（7,280億LKR）を大きく超える外貨を獲得している。

図表4 海外送金額と主要輸出品の比較（単位 百万スリランカルピー）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
海外送金額 (下段は輸出額に対する割合、%)	948,957 66.6	1,054,489 70.3	1,091,972 63.0	1,138,124 65.1	1,200,766 56.2	1,317,007 70.8
輸出総額	1,425,791	1,500,766	1,732,439	1,747,423	2,134,796	1,858,927
お茶	182,054	184,778	233,338	210,668	240,637	230,170
ゴム	3,548	4,758	5,918	4,747	4,321	5,579
ココナッツ	47,745	53,283	53,036	46,166	58,852	63,974
衣料品	618,803	669,796	767,253	725,017	930,805	728,005
その他	573,641	588,151	672,894	760,825	900,181	831,199

注 1スリランカルピーは約0.35円(2023年1月13日時点)  
 出所 スリランカ中央銀行のデータをもとに当社作成

SLBFEのレポートからは、その戦略が、スリランカの国際競争力のある「産業」である海外労働者派遣産業を伸ばす一種の「産業育成策」とみてとれる。海外で働く希望を持つ若い人々に教育や訓練などを施し、スリランカの海外労働者派遣産業の国際競争力を伸ばそうとするのがSLBFEの戦略の本質と考えられないだろうか。

失業率の高い若年女性、スキルが不足しているために中東やインドで低付加価値の仕事に従事する労働者を教育・啓蒙して家政婦や建設現場の単純労働者から技術を学べる先進国の雇用機会（医療、介護、食品加工、住宅建設現場等）に誘導しながら、スリランカの労働力の競争力の一層の強化を図り、海外労働者派遣をスリランカの「産業」として一段と大きく育成することを考えているのではないだろうか。

## 《日本のメリット》

国を挙げて海外の雇用機会獲得に動くスリランカだが、日本にとってのメリットは3つ考えられる。第1は技能実習制度の本旨と運用の乖離を縮小するチャンスと捉えることができる点であり、第2は採用後のコミュニケーションミスによるトラブル発生リスクを低減できる点である。そして第3は国家戦略が明確に示されており、組織的で大規模なタイアップが可能とみられる点である。

スリランカも基本的には日本を含めた海外の雇用機会獲得を目指しているが、単純労働から技術習得を含めたより付加価値の高い雇用を目指している点で「稼ぎ」だけではない要素を含んでいる。派遣される労働者の「学び」に対する意欲が期待できる点で技能実習制度の本旨により近い運用を図れる機会を増やすことは可能だろう。

また、SLBFEのような機関が日本を目指す実習生の積極的にサポートする体制することであり、コミュニケーションミスなどのリスクを軽減し、失踪を含む様々な採用後のトラブルの発生リスクを低減できることが期待できる。

大規模な採用を考えた場合、国家として組織だった供給戦略がSLBFEによって明確に示されている点で協力関係の構築が構築しやすい点も評価できるだろう。

## 《スリランカとの縁》

スリランカは現在、国家破産の状態に陥っている。国外逃亡した親中国の前政権による中国からの借りに依存した過大かつ非効率な公共投資（海の一路計画の一環）が失敗したためだ。IMF（国際通貨基金）による再生プログラムで最低限必要な輸入品の確保ができてきている状況だが、今後のIMF支援の前提となる債務再編については中国が難色を示して進捗が遅れており、厳しい経済状況が続く見通しだ。

経済成長が著しい中国やベトナムと異なり、スリランカはこれから数年、景気後退や低い経済成長に甘んじなければならず、日本を含む海外での雇用機会はより高い価値のあるものとなるはずだ。中長期の安定した労働力供給を期待できる可能性がある。

第二次大戦後、スリランカの故ジャヤワルデネ元大統領はサンフランシスコ講和会議において「憎悪は憎悪によってやまず、愛によってのみやむ」とのブッダの言葉を引用し、対日賠償請求権の放棄などを訴える「歴史的な演説」を行った。自国の賠償請求権放棄（旧日本軍のインド洋での作戦で被害を受けている）を表明し、日本の早期国際社会復帰を後押しした。スリランカ国家再建に何かしらの貢献をするのは何かの縁かもしれない。

\*\*\*\*\*

## 《是非、スリランカ訪問のご報告をさせていただきたいと考えております》

我々は協同組合「善美」(<https://www.zenbicoop.com>)を通して、既に10以上の国々（インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、タイ、フィリピン、中国など）で、22の送り出し機関と提携し、多様な人材の供給のお手伝いしております。

我々は2月4～6日にスリランカを訪れ、労働・海外雇用大臣であるマヌーシャ氏と会談して参りました。技能実習生の送り出し機関トップや、政府要人との情報交換も行っていました。スリランカの諸事情についてトップクラスの情報獲得機会であると同時に人材調達ロジスティクスを検討する際の最も高度なインテリジェンスを得る機会を頂戴しております。

お取引の有無にかかわらず、一度お時間を頂戴してご面談を賜り、スリランカ訪問に関するご報告をさせていただければ幸いに存じます。中長期の人材戦略にお役に立てていただければと考えておりますので、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。